

ている。

次に消費者世帯を細分して調査した結果についてみると、日雇・家内労働者世帯では、穀類、いも類等からの摂取率が他の世帯群を上回り、逆に動物性食品からの摂取率は最も低い。

4. 栄養欠陥による身体症候

栄養欠陥による身体症候は摂取している栄養状態の良否に直接関係のあるものであるが、わが国の食生活は米食偏重であるうえ、副食が極めて粗末であることなどから動物性蛋白質、脂肪、ビタミン、カルシウム等に欠乏し易く、そのためこれら身体症候の発現を招いている。

調査項目は国民栄養調査を始めた頃には相当数あつたが、現在はその数も6項目になり、主としてビタミンの欠乏時にみられる身体症候に限られている。しかしこれらの症候は医学的にかなり複雑なものであつて、例えば貧血といつても蛋白質不足によるもの、鉄の不足によるものなど栄養素不足によるもの以外に寄生虫とか出血、悪性貧血など他の疾患によつて起るものもある。また毛孔性角化症は診断の基準が非常にむずかしいものであるし、けん反射消失、ひ腹筋圧痛、浮腫等も必ずしもB₁の欠乏によるものとは限らない。このように身体症候の発現には種々の要因が重なり合つているので、その観察には慎重な考慮を必要とする。

1) 全国的傾向

まず身体症候による有症者率（この場合有症者率とは6つの症候のうちどれか1つ以上の症候を持つている人をいい、例えば同時に二つ以上の症候を持つている者でも有症者は1人とする）は前年と全く変わりなく被調査者の24.4%，すなわち4.1人に1人という高率に発現している。なお年次別にみると31年までは22～23%前後の発生率であつたが32年から米の豊作等の影響もあつてB₁欠乏に関係ある症候が大幅な増加をみせた結果、有症率も32年には25.9%，33、34年には24.4%と増加の傾向を示しており、わが国の食糧消費のあり方に反省の必要を感じさせる。

次に症候別に発現の傾向をみると最も高率に発現しているものはB₁欠乏に関係あるけん反射消失、ひ腹筋圧痛などで、これらはそれぞれ10.9%，6.2%の発現率を示し、いずれも従来からの最高値となつてい

る。次いで多いのはB₂欠乏に関係あるとみられる口角炎で前年より若干減少したとはいえ5.7%におよび27～29年頃の4.2%を上回つてい

る。貧血、毛孔性角化症、浮腫の三者はそれぞれ2.4%，2.9%，2.7%とほぼ同率の発現となつてい

るが、前年と比較するといずれも若干ながら減少している。

年次別にみると貧血は数年来大差はみられないが、毛孔性角化症は24年には1.1%であつたものが、年々少しづつ上昇しており、ビタミンAの摂取量が年々向上しているのと相反する傾向をみせてい

第30表 身体症候発現率の年次推移

	24 年	27 年	30 年	33 年	34 年
	%	%	%	%	%
有 症 率	17.7	22.9	22.5	24.4	24.4
貧 血	2.7	3.4	2.3	2.7	2.4
口 角 炎	5.9	4.5	5.4	6.3	5.7
毛孔性角化症	1.1	2.2	2.7	3.5	2.9
けん反射消失	7.6	7.3	6.8	9.5	10.9
ひ腹筋圧痛	-	-	-	5.5	6.2
浮 腫	1.5	2.0	1.5	2.8	2.7

このほか浮腫もまた年々増加の傾向にある。

2) 年齢階級別発現率

年齢階級別に発現状況を見るとけん反射消失、ひ腹筋圧痛、浮腫等のビタミンB₁欠乏に関係ある症候は年齢とともに増加し、特にけん反射消失は5才未満の3%位からはじまって20～24才で11%、40才以上になると16%前後に達する。

第31表

身体症候の年齢階級別発現率

			5才未満	5～9	10～14	15～19	20～24	25～39	40才以上
有	症	率	12.3	23.6	23.0	20.7	20.8	26.7	32.5
貧	血		1.0	1.6	1.4	1.3	1.2	2.4	4.8
口	角	炎	4.4	8.8	7.2	3.7	2.9	3.8	5.3
毛	孔	性	1.1	3.4	4.3	3.3	3.1	2.7	2.4
け	ん	反	2.7	5.4	6.6	8.6	10.7	11.9	15.1
ひ	腹	筋	0.1	2.4	4.0	5.5	7.9	7.3	9.8
浮	腫		0.2	0.3	0.6	2.2	3.0	3.4	5.8

ひ腹筋圧痛も10～14才では4%前後であるが、25～39才では7%、40才以上になると約10%に達する。

浮腫は青少年期の発現率は極めて少いが成人になると増加し、特に40才以上の女子の発現率は8%にもおよんでいる。

口角炎などのB₂欠乏症候はB₁欠乏症候とは全く異つた傾向を示し、発育盛りの5～9才での発現率が最も高く5月調査では8.8%、11月には10.7%となっており、また10～14才での発現率も7%前後と高いが15才以上では大差なくおよそ5%前後となつている。

毛孔性角化症は5才未満では1%前後にすぎないが、10～14才での発現率は4.5%前後と高く、それ以後の年齢層では若干下降している。

3) 性別発現率

性別に発現率をみると前年と同様に男子よりも女子の方が有症者率が高く男の21.7%に対し女は26.6%になつている。

また個々の症候についてみると昨年の如く口角炎に限つて男の罹患率が高く、女子の5.3%に対し男子では6.2%となつているが、そのほかの症候では女子の有症率が高く特に著しく差のあるのは浮腫であつて男の0.9%に対し女では4.2%の発現率を示している。

また口角炎は男子でも特に生産者世帯の5～11才位の若年齢層の者に多く、浮腫は消費者世帯の女子特に高年齢層のものに多い。

4) 季節別発現率

5月と11月の別に発現状況を比較してみると、有症者率は昨年と異なり5月の23.6%に対し11月は25.3%と若干上回つている。

なお各症候別にみると貧血、ひ腹筋圧痛、浮腫は5月の発現が多く、口角炎、けん反射消失の両者は11月の方が若干発現率が高い。

第32表 身体症候の性別発現率

	男		女
	%	%	
有 症 率	21.7	26.6	
貧 血	1.7	3.1	
口 角 炎	6.2	5.3	
毛 孔 性 角 化 症	2.1	3.6	
け ん 反 射 消 失	9.8	11.9	
ひ 腹 筋 圧 痛	5.6	6.6	
浮 腫	0.9	4.2	

第33表 身体症候の季節別発現率

	5 月		11 月
	%	%	
有 症 率	23.6	25.3	
貧 血	2.6	2.3	
口 角 炎	5.3	6.1	
毛 孔 性 角 化 症	2.9	2.9	
け ん 反 射 消 失	10.1	11.9	
ひ 腹 筋 圧 痛	6.2	6.1	
浮 腫	2.9	2.5	

5) 業態別発現率

業態別に有症者率をみると生産者世帯が最も高く28.7%を占め、その他の世帯も27.1%と高率に発現しているが消費者世帯はかなり低く21.0%である。

前年と比較してみると生産者世帯では若干減少しているが消費者世帯とその他の世帯との間にはほとんど差はみられない。各症候別にみると口角炎、けん反射消失、ひ腹筋圧痛は前年と同様に生産者世帯の発現率が最も多く、その他の世帯がこれに次いでいるが、消費者世帯は最も少い。しかし消費者世帯では浮腫の発現率が他の世帯群をやや上回っている。

このように生産者世帯は米食依存の傾向が強いのと、副食の構成が著しく粗悪であるためなどの影響もあつて身体症候の発現率も消費者世帯を大きく上回っている。

なお特に生産、消費の両世帯で著しい差のあるものは口角炎で消費者世帯の3.2%に対し、生産者世帯では2倍以上の8.7%となつている。

年齢階級別にみると口角炎は生産者世帯の5～9才での発現率が最も高く、特に男子では5月が16.3%11月も18.3%と高率である。5～9才に次いで多いのは10～14才でその発現率は5月で12.9%となつている。

次に5月調査における消費者世帯細分の結果についてみると、有症率は日雇・家内労働者世帯が最も多く24.0%に達しているが、事業経営者世帯と常用勤労者世帯は20%前後である。

しかし前年と比べると常用勤労者世帯を除く他の世帯ではいずれも若干の減少をみせている。

症候別に分けてみても貧血、口角炎、毛孔性角化症、けん反射消失等はいずれも日雇・家内労働者世帯が最も高く、その他の世帯はこれに次いでいるが、生活水準の高い常用勤労者世帯や、事業経営者世帯での発現率は少い。

第34表 身体症候の業態別発現率

	生 産 者 世 帯	消 費 者 世 帯	そ の 他 の 世 帯
	%	%	%
有 症 率	28.7	21.0	27.1
貧 血	2.6	2.3	2.8
口 角 炎	8.7	3.2	8.2
毛 孔 性 角 化 症	3.7	2.2	3.7
け ん 反 射 消 失	11.8	10.3	11.3
ひ 腹 筋 圧 痛	7.0	5.5	6.8
浮 腫	2.4	3.0	2.3

第35表 身体症候の業態別発現率 (消費者世帯細分・5月)

	事業経営者世帯	常用勤労者世帯	日雇・家内労働者世帯	その他の消費者世帯
	%	%	%	%
有 症 率	19.8	20.5	24.0	21.6
貧 血	1.8	2.7	2.7	2.4
口 角 炎	3.0	2.8	5.4	3.3
毛 孔 性 角 化 症	2.0	2.5	4.4	2.5
け ん 反 射 消 失	9.2	10.1	10.1	9.4
ひ 腹 筋 圧 痛	5.4	5.1	4.6	6.2
浮 腫	3.2	3.2	2.6	3.1